

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|---|---|------|-------|
| 科目名 | 生涯学習概論 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 福野 裕美 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：生涯学習は、学校教育、家庭教育や社会教育における学習を含めた大きな広がりを持つ概念である。本講義では、生涯学習に関する以下の項目について基本的な知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育の本質と意義 ・社会教育の法と行政および施策 ・学校教育・家庭教育等との関連 ・社会教育施設の役割と機能 ・専門的職員の役割 ・学習活動への支援のあり方 <p>学生の学習成果：専門的学習成果としては、上記の基礎的知識を修得する。汎用的学習成果としては、①コミュニケーション能力、②社会教育に携わることを志す者として自ら主体的に学ぶ姿勢や態度を涵養する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で行うが、受講生の興味関心に応じて、グループディスカッションなどの活動を行うこともある。 ・受講者の理解を促進させるため、小テスト、課題を課す。 | <p>予習・復習</p> <p>1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業でポイントを示す。</p> | <p>テキスト</p> <p>伊藤俊夫・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい、2010年。</p> | | | |
| 成績評価の方法 | <p>達成基準：以下の6つの項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習・社会教育の本質と意義を理解する。 ②社会教育の法と行政および施策について理解する。 ③学校教育・家庭教育等との関連について理解する。 ④社会教育施設の役割と機能を理解する。 ⑤専門的職員の役割、学習活動への支援のあり方について自分の意見を持つことができる。 ⑥他者の異なる視点からの意見も考慮した上で、自分の意見を表明することができる。 <p>学習評価は、試験 (60%)、小テスト・課題 (40%) によって行う。課題は授業中に提示する。なお、遅刻2回につき欠席1回とみなし、欠席1回につき減点1とする。また、授業態度に問題があった者も場合に応じて減点の対象とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>関口礼子他『新しい時代の生涯学習 [第2版]』有斐閣、2009年。 佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。 それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|--------------------|--|
| 1 回 | オリエンテーション 授業概要と評価方法、本講義のルールの説明 生涯学習とは何か 【予習】教科書 1-11 頁 |
| 2 回 | 生涯学習・生涯教育論の展開 【復習】教科書 1-11 頁 【予習】教科書 12-27 頁 |
| 3 回 | 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 【復習】教科書 12-27 頁 |
| 4 回 | 生涯学習と学校教育 【復習】配布プリント |
| 5 回 | 生涯学習を支える学習機会 【復習】配布プリント |
| 6 回 | 生涯学習振興施策の立案と推進 【復習】配布プリント 【予習】教科書 33-45 頁 |
| 7 回 | わが国における社会教育の意義・発展・特質 【復習】教科書 33-45 頁 【予習】教科書 51-63 頁 |
| 8 回 | 社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携 【復習】教科書 51-63 頁 【予習】教科書 64-69 頁 |
| 9 回 | 自治体の行財政制度と教育関連法規 【復習】教科書 64-69 頁 【予習】教科書 103-119 頁 |
| 10 ・ 11 回 | 社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供・学習相談） 【復習】教科書 103-119 頁 |
| 12 回 | 学習への支援と学習成果の評価と活用 【復習】配布プリント 【予習】教科書 85-101 頁 |

| | |
|---------|--|
| 13 回 | 社会教育施設・生涯学習関連施設の役割と機能 【復習】教科書 85-101 頁 【予習】教科書 124-127 頁 |
| 14 回 | 社会教育指導者の役割 【復習】教科書 124-127 頁 |
| 15 回 | 全学習内容のまとめ |

| | | | | | | | |
|--|---|--|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 生涯学習概論 2nd (社会教育主事) | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 福野 裕美 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：生涯学習について、以下の諸点に関する基礎的知識の定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達とその諸課題 2. 家庭・学校・地域社会における教育・学習活動 3. 生涯学習支援施設としての図書館の機能 4. まちづくりの理念、構造、方法、実践 <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、上記の項目に関する基礎的知識や考え方を修得する。汎用的学習成果として、①専門的知識を使用して論理的に思考する力、②自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力、③社会教育に携わることを志す者として、また一社会人として教育や地域づくりについて真摯に考える姿勢・態度、を涵養する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>①(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、個人発表、および質疑応答を授業の主要な構成要素とする。 2. 各受講生(個人ないしグループ)が担当する箇所を決め、当該箇所について、受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う。レジュメは早期に作成し、発表までに一度は担当教員のチェックを受けること。 3. 発表をもとに、質疑応答を行う。また、以上の内容を補う講義をする。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | 予習・復習 | 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で示す。 | | | | | |
| | テキスト | 菅谷明子著『未来をつくる図書館』岩波書店、2003年。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下の5つの学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習の観点から、人間の発達とその諸課題について理解する。 ②生涯学習の観点から、家庭・学校・地域社会における教育・学習活動について理解する。 ③生涯学習支援施設としての図書館の機能を理解する。 ④生涯学習の観点から、まちづくりの理念、構造、方法、実践について理解する。 ⑤教科書の担当箇所について、ポイントを的確にとらえたレジュメを作成・発表できる。 <p>学習評価は、学期末試験(60%)、レジュメ発表(20%)、小テスト(20%)により行う。 なお、遅刻2回につき欠席1回とみなし、欠席1回につき減点1とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 山本思外里著『大人たちの学校』中央公論新社、2001年。 田村明著『まちづくりの実践』岩波書店、1999年。 それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | オリエンテーション：授業概要と評価方法を説明 前期「生涯学習概論 1st」の復習 |
| 2 回 | 発達段階に応じた学習 ・人生の発達段階に応じた学習について考える。 レジュメ作成の手順・発表への心得 【復習】配布プリント 【予習】『大人たちの学校』1-64 頁 |
| 3 回 | 成人の学習について考える（1） ・学習を愉しむ（第1章） ・何を学ぶのか（第2章） 【復習】『大人たちの学校』1-64 頁 【予習】『大人たちの学校』65-135 頁 |
| 4 回 | 成人の学習について考える（2） ・「習う」から「教える」へ（第3章） ・カルチャーセンターと生涯学習行政（第4章） 【復習】『大人たちの学校』65-135 頁 【予習】『大人たちの学校』137-170 頁 |
| 5 回 | 成人の学習について考える（3） ・新しい教養人の誕生（第5章） 【復習】『大人たちの学校』137-170 頁 【予習】『未来をつくる図書館』1-23 頁 |
| 6 回 | 図書館の持つ可能性を探る（1） ・図書館で夢をかなえた人々（序章） 【復習】『未来をつくる図書館』1-23 頁 【予習】『未来をつくる図書館』25-90 頁 |
| 7 回 | 図書館の持つ可能性を探る（2） ・新しいビジネスを芽吹かせる（第1章） ・芸術を支え、育てる（第2章） 【復習】『未来をつくる図書館』25-90 頁 【予習】『未来をつくる図書館』91-149 頁 |
| 8 回 | 図書館の持つ可能性を探る（3） ・市民と地域の活力源（第3章） 【復習】『未来をつくる図書館』91-149 頁 【予習】『未来をつくる図書館』151-217 頁 |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>図書館の持つ可能性を探る（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営の舞台裏（第４章） ・インターネット時代に問われる役割（第５章） <p>【復習】『未来をつくる図書館』151-217 頁 【予習】『未来をつくる図書館』219-230 頁</p> |
| 10 回 | <p>図書館の持つ可能性を探る（５）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の図書館を「進化」させるために <p>【復習】『未来をつくる図書館』219-230 頁 【予習】『まちづくりの実践』1-51 頁</p> |
| 11 回 | <p>まちづくりについて考える（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の「まちづくり」（序章） ・「まちづくり」の実践（第１章） <p>【復習】『まちづくりの実践』1-51 頁 【予習】『まちづくりの実践』53-118 頁</p> |
| 12 回 | <p>まちづくりについて考える（２）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の価値発見（第２章） ・価値の創造（第３章） <p>【復習】『まちづくりの実践』53-118 頁 【予習】『まちづくりの実践』119-162 頁</p> |
| 13 回 | <p>まちづくりについて考える（３）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が「まち」をつくるのか（第４章） ・「まちづくり」の構造（第５章） <p>【復習】『まちづくりの実践』119-162 頁 【予習】『まちづくりの実践』163-206 頁</p> |
| 14 回 | <p>まちづくりについて考える（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」の実践のヒトとシクミ（第６章） ・「まちづくり」の実践の力（第７章） <p>【復習】『まちづくりの実践』163-206 頁</p> |
| 15 回 | <p>まとめ:これまでの学習内容の総復習</p> |

| | | | | | | | | | |
|--|--|-------------------------------|---|-----|---|------|-------|----|-------|
| 科目名 | 社会教育計画 1st (社会教育主事) | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 福野 裕美 | | |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時 | | | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 :</p> <p>「生涯学習社会」において、住民の主体的学習を保障・支援するためにどのような社会教育計画が求められているのか。本講義では、政策レベルから個別の学習プログラムに及ぶ社会教育計画の理論と実践について、以下のような基礎的知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進施策の意義と体系 ・多様な学習者の特性、学習支援者の役割 ・学習情報の提供、学習相談の意義 ・生涯学習の観点からのまちづくり <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果としては、社会教育計画に関する上記の基礎的知識を理解・修得する。汎用的学習成果としては、論理的思考力、他者理解力を身につける。</p> | | | | | | | | |
| | 教育 | 授業の進め方 | <p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式によって行う。受講生の興味関心に応じてグループディスカッション等の活動を行うこともある。 ・受講者の理解を促進するために、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組むレポート課題を課す。 | | | | | 方法 | 予習・復習 |
| | テキスト | 佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。 | | | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>達成基準 : 以下の学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習推進施策の意義と体系について基礎的知識を修得する。 ②様々な学習者の特性、学習支援者の役割を理解する。 ③学習情報の提供、学習相談の意義を理解し、現状と課題を認識する。 ④生涯学習の観点からのまちづくりの現状と課題を認識する。 <p>学習評価は、最終試験 (60%)、小テスト (20%)、課題 (20%) によって評価する。課題は授業中に提示する。なお、遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席 1 回につき減点 1 とする。</p> | | | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>関口礼子・小池源吾他著『新しい時代の生涯学習 (第 2 版)』有斐閣アルマ、2009 年。</p> <p>そのほか、授業中に適宜紹介する。</p> | | | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | オリエンテーション ・講義概要と評価方法の説明 |
| 2 回 | 生涯学習推進計画と社会教育計画とのかかわり 【復習】配布プリント |
| 3 回 | 生涯学習推進計画の企画・立案の概要 【復習】配布プリント |
| 4 回 | 生涯学習推進の組織、推進体制 【復習】配布プリント |
| 5 回 | 生涯学習と学習者（1） ノールズのアンドラゴジー論を中心に、成人学習者の特性および課題について考える。 【復習】教科書 83-89 頁 |
| 6 回 | 生涯学習と学習者（2） 学習者の中でも特に生涯学習の完成期にあたる高齢者の特性および課題について考える。 【復習】教科書 90-94 頁 |
| 7 回 | 生涯学習と支援者・指導者（1） 生涯学習における支援者・指導者の位置づけや、学習活動の進展に応じた役割について考える。 【復習】教科書 95-102 頁 |
| 8 回 | 生涯学習と支援者・指導者（2） 支援者・指導者の類型と養成・研修について学ぶ。 【復習】教科書 102-108 頁 |
| 9 回 | 生涯学習と指導者・支援者（3） 社会教育主事に何が期待されているのか。高度化する社会教育主事養成について学ぶ。 【復習】配布プリント |

| | |
|---------|--|
| 10 回 | 生涯学習情報の提供と学習相談（1） 学習情報とは何か、学習情報提供の動向について学ぶ。 【復習】教科書 162-170 頁 |
| 11 回 | 生涯学習情報の提供と学習相談（2） 情報社会における学習情報の内容や方法について学び、学習情報提供と学習相談の課題を考える。 【復習】教科書 170-176 頁 |
| 12 回 | 生涯学習のまちづくり施策の展開（1） 生涯学習のまちづくりの展開について、1週目は各種答申をもとに行政施策の歴史と概要を学ぶ。二週目は具体事例に基づき、地域レベルでのまちづくりの現状と課題を考える。 【復習】教科書 57-63 頁、配布プリント |
| 13 回 | 生涯学習のまちづくり施策の展開（2） 生涯学習のまちづくりの展開について、具体事例に基づき、地域レベルでのまちづくりの現状と課題を考える。 【復習】教科書 63-69 頁、配布プリント |
| 14 回 | 生涯学習成果の評価と認証 【復習】教科書 177-191 頁 |
| 15 回 | まとめ：これまでの授業内容の総復習 |

| | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 社会教育計画 2nd (社会教育主事) | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 福野 裕美 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標： 前期「社会教育計画」で学んだ基礎的知識をもとに、より具体的な学習プログラムを企画立案・運営するための実践的な力量を育成する。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果としては、学習プログラムの企画・立案、実施の具体的手法を修得する。汎用的学習成果としては、①コミュニケーション能力、②他者の主体的学習を支援する社会教育関係者としてふさわしい態度や自己管理能力を身につける。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と参加型学習を組み合わせながら行う。 ・授業中に課題を出し、授業時間を複数回使って取り組む。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業に対して予習・復習が必要である。その内容は毎回の授業で示す。 ・課題遂行のため、授業時間外に各自で調べ物をし、作業を進めることを求める。 | | | | | |
| | テキスト | 特に定めない | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>達成基準：下記の項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育調査に関する基礎的知識を修得する。 ・学習プログラムの企画立案・運営・評価に関する基本的知識を修得する。 ・アンケートを作成することができる。 ・学習プログラムを作成することができる。 ・参加型学習の意義について理解し、いくつかの手法を実践することができる。 <p>学習評価は、期末試験 (50%)、課題 (50%) によって行う。なお、受講者の興味関心に応じて、課題の内容は変更される場合がある。</p> <p>遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席は 1 回につき減点 1 とする。</p> <p>正当な理由なく提出物が遅れた場合についても減点 1 とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>廣瀬隆人他『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方～「参加」から「参画」へ～』ぎょうせい、2000年。</p> <p>それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：講義概要と評価方法の説明 ・前期「社会教育計画」の復習 |
| 2 回 | 社会教育調査（1）～社会教育調査とは何か、調査方法の概要～ 【復習】 配布プリント 【課題】 インターネット等を利用して、アンケートの具体例を収集する。 |
| 3 ～ 5 回 | 社会教育調査（2）（3）（4）～アンケート作成～ 【復習】 配布プリント 【課題】 授業中の指摘を踏まえてアンケートを修正する。 |
| 6 回 | 学習プログラムの「企画・立案」力 【復習】 参考図書 14-19 頁 |
| 7 回 | 学習プログラムの「デザイン」力（1） 【復習】 参考図書 20-25 頁 |
| 8 回 | 学習プログラムの「デザイン」力（2） 【復習】 参考図書 26-43 頁 |
| 9 回 | 参加型学習のすすめ方 【復習】 参考図書 46-63 頁 |
| 10 回 | 参加型学習アクティビティの展開（1）～ディベート、KJ法、ブレインストーミング等～ 【復習】 参考図書 64-71 頁 |
| 11 回 | 参加型学習アクティビティの展開（2）～ロールプレイ、フィールドワーク、シミュレーション、アイスブレイク等～ 【復習】 参考図書 72-91 頁 |

| | |
|---------|--|
| 12 回 | <p>学習プログラムの作成（1）～学習プログラムの企画・立案の視点・手順の概要～</p> <p>【予習】県や市、公民館等の広報紙やインターネットを用いて、どのような学習プログラムが実施されているかを調べる。</p> <p>【課題】・各自が関心のある学習プログラムを作成する。 ・自治体の生涯学習推進計画や社会教育計画、各種データを収集する。</p> |
| 13 回 | <p>学習プログラムの作成（2）</p> <p>【課題】授業中の指摘を踏まえて、学習プログラムを修正する。</p> |
| 14 回 | <p>学習プログラムの作成（3）～学習プログラムの発表・質疑応答～</p> <p>【復習】配布プリント</p> |
| 15 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習社会実現にむけた社会教育計画、魅力的な学習プログラムとは ・まとめ：これまでの学習内容の総復習 |

| | | | | | | | |
|---|--|---|----|-----|---|------|-----|
| 科目名 | ライフステージと生活課題 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 尾崎聡 |
| 質問受付の方法(e-mail, オフィスアワー等) : osaki@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>【教育目標】この授業は「現代人が“ライフステージ”すなわち人生の各段階で、“生活課題”すなわちどのような発達の危機に直面するか。そしてそれら乗り越えていくなかでどのような徳を獲得し、人間的に成熟していくのか」ということについて基本的知識を社会教育という文脈において身に付けることを目標とする</p> <p>【学生の学習成果】(専門的学習成果:社会教育にたずさわる者としてのライフサイクル学・ライフヒストリー学に関する基本的な「知識・理解」、汎用的学習成果:社会人として生きていくうえでの「信念・意見・価値観・態度」)</p> <p>現代人における人生の諸段階、各段階において直面する発達の危機、危機を乗り越えたときに獲得される徳、人間的成熟について概観できるようになっている</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | (講義) 担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、社会教育主事任用資格取得に特化された受講者なので対話によって各自の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。 | | | | | |
| | 予習・復習 | 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については毎回の授業でポイントを示す | | | | | |
| | テキスト | 特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>【達成基準】</p> <p>① 現代人における人生の諸段階、各段階において直面する発達の危機、危機を乗り越えたときに獲得される徳、人間的成熟について概観できるようになっていること</p> <p>② 人間の一生に関して、ライフサイクル学あるいはライフヒストリー学的な観点から、適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 社会科学性(すなわち思考の客観性、社会的な関心性) 題材の選び方・題材の切り口(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>2. 人間学性(思考の個性、主体性、内面性) 題材の選び方・題材の切り口(秀逸・良し・普通・やや不満・不満) 記述内容(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>【評価方法】</p> <p>筆記試験。1,000字の論述を課する(90%) 提出物:試験前に受講者各自の「人生の諸段階、発達の危機、徳の獲得、人間的成熟」への興味関心の発達度を確認する(10%) 欠席回数×(-2)点</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 参考図書は各回ごとに指示する | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>【ガイダンス】教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。なお幼児教育学科は最初の社会教育関係の授業なので社会教育の世界(社会教育施設、社会教育主事など)を具体例をあげて紹介する。</p> <p>【導入】「ライフサイクル」「ライフステージ」とは</p> <p>【参考映像】NHK大河『花神』(吉田松陰は人間の一生を四季に例えた)</p> |
| 2 回 | <p>【ライフサイクル、ライフステージとは】人間の一生をライフサイクル、ライフステージという視点から見ることの意味、思想性、そして可能性を探る。又、それらとは異なる視点「ライフヒストリー」についても考える。</p> <p>【参考文献】『論語』孔子、『お気に召すまま』シェイクスピア</p> <p>【参考映像】「人間 50 年…」(信長がお気に入りであった“敦盛”を見る。演ずるは『徳川の女』では加藤剛、『利家とまつ』では反町隆史など)</p> |
| 3 回 | <p>【現代人トピックス(未婚率と青年期延長)】青年後期は大人としての実力が厳しく試される時期である。それだけに挫折感、絶望感は深刻である。また人生のパートナーと出会い、子供を生し、家族を形成する人も多い。青年期の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな「徳」が獲得されるのかを確認する。</p> <p>【参考映像】フジテレビドラマ『やまとなでしこ』(「女性の最高値(さいたかね)は 27 歳」なのか?)</p> |
| 4 回 | <p>【現代人トピックス(未婚率と青年期延長)②】</p> <p>【参考映像】NHKドラマ『トップセールス』(男は大晦日まで、女はクリスマスケーキまで…といわれた時代)</p> |
| 5 回 | <p>【青年前期の発達課題(モラトリアム、青年期と不適合、スチューデントアパシー)】青年前期は学業、恋愛、仕事探し、経済的自立…などの悩みに直面し、やがて青年後期のステージへと移行する。</p> <p>【参考映像】驚きもの木 20 世紀『もうひとりのかぐや姫』(1970 年代の日本人の青春)</p> |
| 6 回 | <p>【タナトロジー(死について考える学問)】かつては医療や福祉の現場で「死」を論ずるなど“きちがい沙汰”であった。しかし現在では医療や福祉に従事するものの必須科目になっている。</p> <p>【参考文献・参考映像】大原健士郎『おれたちは家族だ』(精神科医で終末期医療の専門家である大原氏は自らの妻を癌で失うことになり、その終末期医療のことで、同じく医師である息子と激しく対立する)</p> |
| 7 回 | <p>【老年期の発達課題】かつては老後の人生は短かかった。しかし現代人の老後は気が遠くなるほど長い。老年期の発達課題にはどんなものがあるのだろうか。</p> <p>【参考映像】NHK朝の連続TV小説『ちゅらさん』青年期に看護の道を選び、結婚・退職・育児の道を歩んでいた主人公は訪問看護師として復職する</p> |
| 8 回 | <p>【ライフヒストリー】人間の一生はライフサイクルという観点からのみでは決して解明されない。人生の一回性に注目したライフヒストリーという観点について考える。</p> <p>【参考文献】宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫、『自分史の作り方』猪狩章、情報センター</p> <p>【参考映像】江川が廃墟となった故郷、天竜川沿いの鉾山町を訪ねる(静岡県佐久間の少年時代－栃木県小山にて高校生怪物投手－東京六大学－江川事件…)</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>【家族史(家族のライフサイクル)】「ライフサイクル」は個人にのみ適用されるものではない。「家族」「一族」といった人間集団を例にとり、その盛衰、興亡の歴史を考える。</p> <p>【参考文献】『ブッデンブローック家の人々』T. マン</p> <p>【参考映像】小説・テレビドラマ『大草原の小さな家』</p> |
| 10 回 | <p>【家族史(家族のライフサイクル)②】</p> <p>【参考文献】『ブッデンブローック家の人々』T. マン</p> <p>【参考映像】大草原の小さな家の実話『ローラとローズの物語』</p> |
| 11 回 | <p>【女性のライフサイクル】人間の一生の流れは性別によっても大きく異なる。「性役割」をキーワードに、女性特有のライフサイクルの存在について考える。</p> <p>【参考文献】『ジェンダーの社会学』江原由美子、せりか書房</p> <p>【参考映像】NHKドラマ「蔵」宮尾登美子原作</p> |
| 12 回 | <p>【アイデンティティーの確立と人生】人間の一生は「自分とは何か」「自分らしく生きるとは」などを問い続ける過程である。あらゆる人間科学の基礎概念である「アイデンティティー」をキーワードに人間の一生を概観する。</p> <p>【参考文献】『アイデンティティーの心理学』鏑幹八郎、講談社現代新書</p> <p>【参考映像】テレビドラマ『北の国から』</p> |
| 13 回 | <p>【思春期の発達課題】思春期の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな徳が獲得されるのかを確認する。「思春期における性の意識と行動」思春期というライフステージは近代になって認識されるようになった。「身体的性成熟」と「精神的性成熟」をキーワードに近代人の人生の難関である思春期を考える。自分の少年時代の人間形成を美しく描写し、広く国民にしたしまれている井上 靖作品をとりあげる。</p> <p>【参考文献・参考映像】『あすなる物語』井上靖『しろばんば』『夏草冬濤』井上靖</p> |
| 14 回 | <p>【東洋のライフサイクル(孔子・論語のライフサイクル)】</p> <p>【参考文献・参考映像】NHK『坂の上の雲』</p> |
| 15 回 | <p>【民俗学と現代科学とライフサイクル】: 出産、育児、子供組、若者組、成年式、結婚式、隠居、病気、葬式、墓制などの通過儀礼、行事には日本人の心意の根底にかかわるきわめて重要な課題がある。偶然にも近年の人間観では母親のお腹の中にいる胎児の頃から人生が始まっていると考える。その胎児期から乳幼児・児童期まで、きわめて簡単にではあるが、子ども時代の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな「徳」が獲得されるのかを確認する。</p> <p>【参考文献】『日本人の一生』牧田茂、講談社学術文庫『厄年の科学』金子仁、光文社</p> <p>【参考映像】『千と千尋の神隠し』</p> |

| | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|-----|
| 科目名 | 青少年と社会教育 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 尾崎聡 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : osaki@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>【教育目標】 ライフステージにおける青少年期、社会教育における青少年育成問題について知ることを目標とする</p> <p>【学生の学習成果】 ①専門的学習成果：社会教育にたずさわる者としての青少年問題にする基本的な「知識・理解」が身につく ②汎用的学習成果：社会人として生きていくうえでの「価値観・意見・信念・態度」が身につく</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義) 担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、社会教育主事任用資格取得に特化された受講者なので対話によって各自の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。</p> | | | | | |
| | 予習・復習 | 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については毎回の授業でポイントを示す | | | | | |
| | テキスト | 特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>【達成基準】 ① 青少年問題について概観できるようになっていること ② 青少年というステージに関して、社会教育的な観点から、適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 社会科学性 (すなわち思考の客観性、社会的な関心性) 題材の選び方・題材の切り口 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>2. 人間学性 (思考の個性、主体性、内面性) 題材の選び方・題材の切り口 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>【評価方法】 筆記試験。1,000字の論述を課する (90%) 提出物：試験前に受講者各自の「青少年問題」 (10%) 欠席回数×(-2)点</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 参考図書は各回ごとに指示する | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|---|
| 1 回 | <p>【ガイダンス】教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。</p> |
| 2 回 | <p>【授業内容】社会教育とは 近年は生涯学習概念が世の中を席卷し社会教育の影がすっかり薄くなった。生涯学習と社会教育の関係について考える。</p> |
| 3 回 | <p>【授業内容】青少年というライフステージ 青少年とは何歳から何歳までのことであろうか。またどのようなことを学習するステージであろうか。</p> |
| 4 回 | <p>【授業内容】青少年の学び 学習とはやらされるのではなく自ら学ぶことである。学習によって得られる喜びや充実感が私たちの生活を豊かにする。今後は児童生徒を対象とした生涯学習・社会教育への意識啓発が必要である。</p> |
| 5 回 | <p>【授業内容】青少年とスポーツ スポーツには私たちの心や生活を豊かにする様々な力が秘められている。その取り組み方も選手としてプレーする、ファンやサポーターとして観戦する、自分の健康増進のために楽しむなど様々なスタイルがある。</p> |
| 6 回 | <p>【授業内容】青少年と文化芸術 文化芸術は私たちに感動や精神的な安らぎをもたらすとともに、生活に潤いを与えてくれる。人間は少年期に文化芸術に出会いやがて家庭で、指導者として、あるいは職業として人間関係が希薄化している現代において文化芸術の役割はますます重要になっている。</p> |
| 7 回 | <p>【青少年への学習支援】 青少年期は自立のための準備期間であるが、社会的自立のための力は学校の勉強だけでは身につけることはできない。職場体験など幅広い体験活動が必要である。</p> |
| 8 回 | <p>【青少年と公民館】 一般に公民館は講座を行ったり、会議室を貸したりする施設とされているが、地域の特性や課題をとらえ、ネットワークづくりをする拠点としての役割も期待されている。</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>【授業内容】 青少年と図書館</p> <p>図書館は社会教育施設である。図書館の仕事は単なる資料の貸し出し業務にとどまらない。「こういうことが知りたいのだが」といった質問に答えるレファレンス業務や子どもへの読み聞かせなどの啓発活動もある。</p> |
| 10 回 | <p>【青少年と地域活動】</p> <p>平成10年に特定非営利活動促進法が施行されてから特定非営利活動法人いわゆるNPO法人が注目を集めている。こうしたNPOやボランティア団体などが安定した活動を行うためには活動環境を整備することが必要である。</p> |
| 11 回 | <p>【青少年と人権教育】</p> <p>めまぐるしく変化する社会環境は新たな人権問題を次々に派生させている。研修や講演会といった様々な機会を利用し、人権について学習することは自分自身の行き方を見直し、考えるきっかけを与えてくれる。</p> |
| 12 回 | <p>【青少年と環境教育】 エコカー減税、エコポイントなど環境課題に対応した取り組みが国をあげて行われている。環境課題への認識は充実してきたが、環境保全活動に積極的に取り組む人は多くない。</p> |
| 13 回 | <p>【青少年と郷土教育】</p> <p>自分の住む地域を暮らしやすいものにするために地域を良くする様々な活動が求められているが、活動を活発にするにはまず地域への愛着がなければならない。そのためには郷土について知り、研究することが必要である。</p> |
| 14 回 | <p>【青少年と学校教育】</p> <p>文部科学省が推進する学校支援事業は地域が学校教育を支援していくことを目的としている。これは学校を支援する大人たちの知識と経験を生かしていく試みである。</p> |
| 15 回 | <p>【青少年と家庭教育】</p> <p>家庭教育は親などの保護者がその家庭において子どもに対して行う教育のことで人格を育てる基礎となり、すべての教育の出発点である。しかしはじめから家庭教育力を備えた親はいない。親も子どもの発達に応じて学習し「親育ち」していく必要がある。</p> |

| | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 社会教育行政 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 福野裕美 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 :</p> <p>社会教育行政の理論的・実践的な諸問題を取り上げながら、以下のような基礎的知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育行政の意義や役割、組織形態 ・社会教育に関する法令 ・社会教育施設および社会教育職員の役割 ・生涯学習政策と公共性の問題 <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる項目の基礎的知識を修得する。汎用的学習成果として、基礎的知識を用いて論理的に思考する力、自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力を育成する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業は講義形式を主体として行う。 2. 定期的に小テストや課題を課し、受講生の理解を深める。</p> <p>予習・復習 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で示す。</p> <p>テキスト 佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房、2007年。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>達成基準：下記の学習成果について、「①：②：③：④：⑤＝1：1：2：1：1」の比重をかけて評価する。</p> <p>①社会教育行政の意義や役割を理解する。 ②国や地方公共団体の社会教育行政組織の体制を理解する。 ③地域に根ざした生涯学習施設のあり方および職員の役割について考える。 ④生涯学習政策と公共性の問題について認識する。 ⑤法令や統計など事実に基づく思考の基礎を形成する。</p> <p>学習評価は、試験 (60%)、小テスト (20%)、課題 (20%) によって行う。なお、遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席は 1 回につき減点 1 とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 授業中に適宜紹介する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|--------------------|--|
| 1 回 | オリエンテーション 本講義のルールと評価方法 |
| 2 回 | 社会教育行政の役割と組織 【復習】教科書 127-132 頁 |
| 3 回 | 行政が展開する生涯学習振興策 【復習】配布プリント |
| 4 回 | 国の社会教育行政組織と所掌事務 【復習】教科書 133-139 頁、配布プリント |
| 5 回 | 地方公共団体の社会教育行政組織と所掌事務 【復習】教科書 133-139 頁、142-151 頁、配布プリント |
| 6 回 | 社会教育財政の意義、社会教育費 【復習】配布プリント |
| 7 回 | 生涯学習と社会教育職員 【復習】教科書 153-167 頁 |
| 8 回 | 生涯学習と社会教育施設①～公民館～ 【復習】169-174 頁、配布プリント |
| 9 回 | 生涯学習と社会教育施設②～博物館～ 【復習】教科書 177-180 頁、配布プリント |
| 10 ・ 11 回 | 生涯学習と社会教育施設③～図書館～ 【復習】教科書 175-177 頁、配布プリント 【課題】ビデオ教材を視聴し、小レポートにまとめる。 |
| 12 回 | 生涯学習と社会教育施設④～その他、青少年教育施設、女性教育（女性関連）施設など～ 【復習】教科書 180-187 頁、配布プリント |
| 13 回 | NPO が拓く学びのネットワーク（1） 【復習】配布プリント |
| 14 回 | NPO が拓く学びのネットワーク（2） 【復習】配布プリント |
| 15 回 | 試験対策 これまでの学習内容の総復習 |

| | | | | | | | |
|---|---|--|----|-----|---|------|--------|
| 科目名 | 図書館概論 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 石田 常 亜 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : M棟 4 0 8 (4 2 0 — 2 6 6 6) | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 :</p> <p>図書館の機能や、社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別、図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>よく利用している近くの公共図書館、本学あるいは他の大学図書館の見学や、利用を体験しながら、図書館についての理解を深める。 ▪</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキスト及び適宜作成したプリント、資料により進める。</p> | | | | | |
| | 予習・復習 | 授業の冒頭、前回の講義内容を復唱しながら、新しい講義へと進む。 | | | | | |
| | テキスト | 塩見 昇「図書館概論」(新訂版) 日本図書館協会 | | | | | |
| 学習評価の方法 | 全講義終了後、単位認定のための筆記試験を実施する。 | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>日本図書館協会図書館政策特別委員会「公共図書館の任務と目標 解説」(改訂版増補) ▪日本図書館協会 ▪</p> | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|--|
| 1 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館学の科目」に関する、各科目授業の進め方について ▪ 図書館法の概要、法的基盤について ▪ |
| 2 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・館種別図書館の現状と動向について |
| 3 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の基本要素と機能 ▪ (1) 図書館資料、予算 ▪ |
| 4 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の基本要素と機能 ▪ (2) 図書館職員 (3) 図書館施設 ▪ |
| 5 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の歴史：日本、外国 ▪ |
| 6 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館に関する諸基準：日本、外国 |
| 7 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の理念 ▪ (1) 図書館の自由に関する宣言 |
| 8 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の理念 ▪ (2) 図書館長の倫理綱領 ▪ |

| | |
|---------|--|
| 9 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館の成立と展開 ▪ 公立（共）図書館の任務と目標 |
| 10 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の公共図書館、文庫活動 |
| 11 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・類縁図書館とのネットワーク ▪ （1）学校図書館 ▪ |
| 12 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・類縁図書館とのネットワーク ▪ （2）大学図書館 （3）専門図書館 （4）その他 ▪ |
| 13 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館との連携 |
| 14 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員の役割、資格 |
| 15 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の今後の課題、電子図書館 |

| | | | | | | | |
|------------------------------|---|--|---|-----|---|------|------|
| 科目名 | ボランティア活動 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 坂元 昌 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 :</p> <p>ボランティア活動に関わる際に必要となる理論を身につけることを目標とする。 実際に展開されるボランティア活動の事例について議論することにより、現代社会が抱える課題と、その解決に向けてのボランティアの在り方を探る。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>① ボランティア活動の意義と問題点を理解できる。 ② テーマにそった、議論ができる。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、ボランティア活動の事例の分析とディスカッションにより進める。 授業では、「助けるー助けられる を考える」「施しとボランティア」「開発援助とボランティア」「ボランティア・コーディネート」のテーマを設定し、それぞれのテーマごとに具体的なボランティア活動についての議論や発表を行う。 毎回授業の終わりに、小レポートを作成する。 受講生には発表を課す場合がある。</p> | | | | |
| 予習・復習 | | <p>授業に関連するボランティア活動について、調べ、まとめること。 予習・復習の詳細については、授業で指示する。</p> | | | | | |
| テキスト | | <p>指定なし</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>① 小レポートの内容 (30%) ② 期末試験の成績 (70%)</p> <p>以上2点から評価する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考文献は、授業のなかで随時紹介する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>【イントロダクション】</p> <p>授業の目的と、授業の流れについて説明する。 ボランティアについてのイメージについて議論し、ボランティアについて考える導入とする。</p> |
| 2 回 | <p>【ボランティアとは】</p> <p>ボランティアに関する基本的な概念を整理し、日本におけるボランティアの歴史について概観する。</p> |
| 3 回 | <p>【ボランティアの有効性】</p> <p>なぜボランティアなのか、社会におけるボランティアの必要性と有効性について考える。</p> |
| 4 回 | <p>【ボランティアの課題】</p> <p>ボランティアは有効であるとされる一方、その問題点が指摘される。 ボランティアの課題と可能性について概観し、議論する。</p> |
| 5 回 | <p>【「助ける・助けられる」を考える①】</p> <p>実際のボランティア活動の例を紹介し、助ける・助けられる関係からボランティアの有効性と課題について具体的に考える。</p> |
| 6 回 | <p>【「助ける・助けられる」を考える②】</p> <p>障害者支援・障害学生支援等の事例から、助ける・助けられる関係の在り方について議論する。</p> |
| 7 回 | <p>【「助ける・助けられる」を考える③】</p> <p>障害者支援・障害学生支援等の事例から、助ける・助けられる関係の在り方について議論する。</p> |
| 8 回 | <p>【施しとボランティア①】</p> <p>施しとボランティアについて、「発展途上国」と呼ばれる国への援助の背景にある文化的価値観についての議論から考える。</p> |
| 9 回 | <p>【施しとボランティア②】</p> <p>施しとボランティアについて、「発展途上国」と呼ばれる国への援助の背景にある、文化的価値観についての議論から考える。</p> |

| | |
|---------|---|
| 10 回 | <p>【開発援助とボランティア①】 国際協力や開発援助など、国際的なボランティア活動の例を紹介し、その成果と課題について議論する。</p> |
| 11 回 | <p>【開発援助とボランティア②】 国際協力や開発援助など、国際的なボランティア活動の例を紹介し、その成果と課題について議論する。</p> |
| 12 回 | <p>【ボランティア・コーディネート①】 ボランティア活動の計画から実施までをコーディネートするシミュレーション演習を行う。</p> |
| 13 回 | <p>【ボランティア・コーディネート②】 ボランティア活動の計画から実施までをコーディネートするシミュレーション演習を行う。</p> |
| 14 回 | <p>【総括ディスカッション①】 様々なボランティア活動の特徴と課題を理解した上で、ボランティアが社会に果たす役割について改めて検討する。</p> |
| 15 回 | <p>【総括ディスカッション②】 様々なボランティア活動の特徴と課題を理解した上で、ボランティアが社会に果たす役割について改めて検討する。</p> |